

熊本大学教育学部附属 教育実践総合センターニュース

No. 36 2011.7.22

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~jissen/index.htm>



教員研修モデルカリキュラム開発プログラム（合志市西合志庁舎）

教育実践総合センター長に就任して・・・・・・・・・・・・・・・・・・	センター長	堀畑 正臣	2
教育実践総合センターが果たす役割：大学と地域との連携・・	特別支援教育	菊池 哲平	3
附属からの発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	附属特別支援学校	吉里 紀幸	3
平成 23 年度教員研修モデルカリキュラム開発・・・・・・・・	センター専任教員	中山 玄三	4
東北での被災地支援一報告と御礼ー・・・・・・・・・・	センター専任教員	高原 朗子	6
今年度の教員免許状更新講習をふりかえって・・・・・・・・	センター特任教授	田中 耕治	7
メイクフレンズの活動に接して思うこと・・・・・・・・・・	事務補佐員	正木 明子	8
センター日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			8
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	センター長	吉田 道雄	9

教育実践総合センター長に就任して

センター長 堀畑 正臣

2011 年 4 月より、吉田道雄前センター長の後任として、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長を拝命致しました堀畑正臣です。宜しくお願いします。大学での所属は国語教育で、その中でも専門は国語学（日本語学）です。平安・鎌倉時代や室町時代の古記録や古文書に見られる記録語法や記録語などを調査研究しております。古い文献の調査・研究が主で、現代の教育問題は教育学部や附属学校園での活動を見聞を広めてきたというところです。

昨年まで、3 年間附属中学校長を併任しておりましたので、京町地区の教育実践総合センターは近い存在でした。教育実践総合センターの先生に、中学生の心理面の問題ではカウンセリングをお願いしたり、中学校全体の取り組みなどでアドバイスをいただいたりしてお世話になっていました。またそれ以前、学部の教務委員長をしていた頃から、学部と附属学校園との連携推進に教育実践総合センターの果たす役割の重要性を感じておりました。その後さらに、教育実践総合センターは、教員免許状更新講習実施委員会（教育学部）の責任担当となり、センターの役割がさらに重要になってきたことを実感しております。今回、センター長を拝命して、教育実践総合センターに寄せられる様々な希望・要望をしっかりと受け止め、遂行していく所存であります。よろしくご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

さて、教育実践総合センターは、これまで「教育実践」に役立つことに焦点を当て、様々な活動を展開して参りました。

これまで、①学部・附属学校研究連携推進委員会、②教育学部・熊本市教育委員会連携推進委員会、③フレンドシップ事業、④ユア・フレンド事業、⑤インターンシップ事業、⑥教員免許状更新講習実施委員会と、⑦教員免許更新講習の担当（5 講座及び追加講座の担当）、⑧教育実習事後指導、⑨『教育実践研究』の発行、⑩教育シンポジウム等を行って参りました。（尚、フレンドシップ事業、ユア・フレンド事業、インターンシップ事業は、熊本市教育委員会との連携事業で、本年度はユア・フレンド事業開始 10 周年に当たり、熊本市教育委員会との合同シンポジウムの開催を予定いたしております。）

2011 年度はさらに、文部科学省の指定を受け、「小 1 プロBLEM 解消のための OJT を推進するリーダー養成」を目指した「教員研修モデルカリキュラム開発」のため、教員自主研修講座を熊本県教育委員会と連携して、菊池教育事務所管内の小学校教諭を対象に開催します。センターからは、吉田道雄、田中耕治、高原朗子、中山玄三の各先生、教育学部からは藤田豊、河野順子の各先生が講師として参加されます。この成果が一年後、文科省から教員研修のモデルカリキュラムとして認められ、全国展開することを期待したいと思います。

今後ますます、県・市教育委員会との連携や教育学部、附属学校園との連携を強化し、教育実践総合センターの役割をさらに高めていきたいと思っております。皆様方からご意見ご指導を賜れば幸いです。宜しく御願います。

教育実践総合センターが果たす役割 ：大学と地域との連携

教育学部特別支援教育 菊池 哲平

今年度4月より実践センターの運営委員をお引き受けすることになりました。平成20年度に運営委員になりまして、2度目のお手伝いとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

実践センターが行っている様々な事業の中には、私が専門にしている特別支援教育とかなり関連の深いものが多いと思います。例えばユア・フレンド事業には、発達障害もしくはその疑いを抱えているお子さんも参加されており、心理的・情緒的側面からの個別の支援を必要とされている児童・生徒も多いと伺っています。個々の児童生徒の発達のニーズに対応するという特別支援教育の中で、ユア・フレンド事業が地域において果たしている役割は大きいと思っています。特別支援教育学科でもユア・フレンドに参加する学生が多く、児童・生徒と関わりを深めることで、様々な個別ニーズをもつ子どもへの理解や対応を深める

良い機会になっています。

また免許更新講習においても実践センターは主体的な役割を担っています。特別支援教育を扱ったものは多くの更新講習の中でも特に受講者のニーズが高く、様々な児童・生徒に対する理解や対応方法を求める現場の声が現れていると思われます。現職教員が直面する様々な問題を解決する糸口を探るためには、大学が免許更新講習などで、より良い研修機会を準備することも必要であり、そのために大学と現場をつなぐ位置づけとしての実践センターの役割がより高まってきていると思います。

地域との連携が強く求められる今後の大学教育の方向性の中で、実践センターの意義はますます高まっているといえます。私たち特別支援教育学科の教員も微力ながらお手伝いさせていただければと思います。

附属からの発信

附属特別支援学校 教頭 吉里 紀幸

本年度4月から附属特別支援学校の教頭としてお世話になっております。それまでは、ずっと県立の特別支援学校の勤務で、附属は30年前の教育実習以来となります。懐かしさとともに附属として

の使命と責任の大きさを感じています。

さて、本校は昨年度から2年間文部科学省特別支援教育総合推進事業の委託を受け「特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究～障がいのある

る子どもの特性に応じたコミュニケーション能力を育むための指導方法についての実践研究～」に取り組んでいます。コミュニケーションスケールを用いてアセスメントから指導への可能性を探るとともに、各学部での事例を実証的に検討しています。小学部には「なかま」、中学部は「わくわくタイム」、高等部では「ステップアップタイム」と、各学部にコミュニケーションスキルを育むための特化した授業を位置づけています。また、これらの取組の外部評価として、大学の先生方、熊本県と熊本市の教育委員会の先生、特別支援学校や小学校の校長先生や教頭先生方に運営指導委員として意見をいただくことにしています。この研究の

成果は、平成24年2月2日「くまもと県民交流館パレア」を会場に発表する予定です。課題はまだたくさんあると思いますが、多く方に参加いただきともに高め合っていけたらと願っています。

本校は今年度多くの方々の御努力で、A棟の改修と体育館の新営が始まります。教育のソフト面だけではなくハード面でもさらに充実したものになっていきます。附属学校としての使命である先導的研究をより一層推進し、附属だからできるのではなく、他の特別支援学校や特別支援学級の実践でも大いに役立つ取組を進めていきたいと思っています。今後とも、皆様方の御支援・御指導をよろしくお願いいたします。

平成23年度教員研修モデルカリキュラム開発

教育実践総合センター 中山 玄三

熊本大学と熊本県教育委員会の連携による教員研修モデルカリキュラム開発事業の採択通知が、平成22年度末に、独立行政法人教員研修センターより届きました。県教育委員会教育政策課のご賛同を得て、県立教育センターの石井祐治副所長と教育学部の附属教育実践総合センター教員が中心となって同事業を企画・運営・実施する運びとなりました。

この委嘱事業は、「今日的な教育上の重要課題に関する研修について、各教育委員会の参考となるようなモデルカリキュラムを、大学と教育委員会の連携により開発し、そのモデルカリキュラムを参考例として提示することにより、全国の教育委員会が実

施する研修の充実を図ること」を目的としています。

本学の事業名は、『小1プロブレム解消のためのOJT(On The Job Training)を推進するリーダー養成研修プログラム開発』としました。新学習指導要領の全面実施に向けた今日的な教育課題の一つとして、いわゆる小1プロブレムが挙げられており、幼児教育と小学校教育をつなぐ新しい教育課程づくりが、各学校園に求められています。この小1プロブレムの解消を目指した教育課程づくりに資する教員の力量形成に重点をおいた内容研修プログラムとともに、学校組織としての課題解決力の向上をめざしたスキル研修プログラムの開発を行いま

す。後者のスキル研修プログラムには、参加者が自校の職員全体にその成果とノウハウをスムーズに伝播し、組織機能を高めるための対人関係およびコミュニケーションスキル向上のトレーニングが含まれています。

今年度実施予定の本学主催教員自主研修講座では、菊池教育事務所管内の小学校 33 校のうち 21 校（64%）から参加申込みがあり、次表のような 6 月から 2 月までの研

修日程で、現在進行中です。期待される研修成果としては、理論と実践が密接に結びついた効果的な教員研修モデルカリキュラムを開発・実施することによって、各組織におけるリーダーとしての個々の教員のスキルを高めること、そのリーダーによって汎用性の高い OJT 研修が各学校に定着することで校内研修が充実し、小 1 プロブレムなどの今日的な教育課題が解決することが期待されます。

熊本大学主催教員自主研修講座の日程

日時・場所	研修内容・担当講師
6月7日（火） 14：00-16：30 合志市 西合志図書館	【スキル研修1】 コミュニケーションスキルの基礎 (1) 人間と集団に関する理論 (2) 対人関係およびコミュニケーションスキル向上に求められる理論 講師： 吉田道雄（熊本大学教授）・田中耕治（熊本大学特任教授）
6月28日（火） 14：00-16：30 合志市 西合志庁舎	【スキル研修2】 対人関係およびコミュニケーションスキル向上の実践 (1) コミュニケーションスキルの理解と実践 (2) 学校で実践する行動目標の設定 講師： 吉田道雄（熊本大学教授）・田中耕治（熊本大学特任教授）
7月28日（木） 9：30-12：00 菊池市 七城公民館	【内容研修1】 小1プロブレム解消のための教育課題 (1) 小1プロブレムとは ー子育て支援の立場からー (2) 小1プロブレム解消のための教育課題 ー幼児教育の立場からー 講師： 藤田 豊（熊本大学教授）・高原朗子（熊本大学准教授）
7月28日（木） 13：00-15：30 菊池市 七城公民館	【内容研修2】 幼児教育と小学校低学年をつなぐスタートカリキュラム (1) 熊本県の幼小連携カリキュラムについて (2) スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題 講師： 中山玄三（熊本大学准教授）・根本まり子（県立教育センター指導主事）
10月11日（火） 14：00-16：30 合志市 西合志庁舎	【スキル研修3】 実践行動の振り返りと新たな目標の設定 (1) 3ヶ月間の実践の振り返り (2) 目標設定に求められる条件の理論と分析 (3) 新たな行動目標の設定 講師： 吉田道雄（熊本大学教授）・田中耕治（熊本大学特任教授）
10月27日（木） 14：00-16：30 合志市	【内容研修3】 幼保小連携の実践 (1) 幼保小連携の実践校園からの報告 (2) 幼保小連携の実践上の工夫や課題についての協議

西合志庁舎	講師： 河野順子（熊本大学教授）・藤田 豊（熊本大学教授） 白川悦子（県立教育センター室長） 緒方紀江（菊池教育事務所指導主事）ほか
2月16日（木） 14：00-16：30 菊池市 七城公民館	【内容研修4】 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策 (1) 各学校での幼保小連携の取り組みの現状報告 (2) 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策についての協議 講師： 中山玄三（熊本大学准教授）・田中耕治（熊本大学特任教授） 根本まり子（県立教育センター指導主事） 緒方紀江（菊池教育事務所指導主事）ほか
2月28日（火） 14：00-16：30 合志市 西合志図書館	【スキル研修4】 実践行動の振り返りと学校における展開のスキル修得 (1) それまでの実践の振り返り (2) 研修で獲得したスキルを学校全体に伝播していくためのノウハウの検討 講師： 吉田道雄（熊本大学教授）・田中耕治（熊本大学特任教授）

東北での被災地支援－報告と御礼－

教育実践総合センター 高原 朗子

今年 3 月 11 日の東日本を襲った地震や津波、それに伴う原発トラブルはご存知のことでしょう。

筆者は東北大学で障害児教育に携わる田中真理准教授と研究仲間ということもあり田中氏の緊急要請を受けて、4 月 16 日から 5 日間、東北大学で行われている被災した発達障害児やその家族への支援のため、仙台およびその近郊の市郡を訪問しました。

数カ所で発達障害児やその保護者への支援活動に携わり、被災障害者支援に当たる団体の意見交換会に参加しました。発達障害児への配慮は充分になされ、彼らが楽しそうに遊んでいたのが救いでした。しかし、一方で、震災 1 か月を過ぎたこの時期、被災者の家族や支援する関係職員にはかなりの疲労の色がみうけられました。

活動中に本当に東北の人たちは我慢強く礼儀正しいこと、さらには秘められた芯の強さを肌で感じました。一緒に活動した教員や学生達自身も被災した家族を案じ、自らの研究や学業もある中で、今求められている緊急支援を行っていました。このような日本の将来を担う若者たちと触れ合えたことで何か強い安心感が広がり、かえって勇気もらった支援活動体験でした。現在でも、現地と連絡を取り合って支援に関する資料収集や記録整理の業務を行っており、今後の支援活動にも関わっていくつもりです。

現地に行くにあたっては、準備期間 1 日の申し出にもかかわらず、登田龍彦教育学部長にご快諾いただきました。さらには、わずか半日で谷口功学長のお耳にも入り、学長から「頑張ってください」とのメッセ

ージを賜りました。学部事務スタッフの方達には名札や腕章の準備等でたいへんお世話になり、さらには実践センタースタッフや学部の先生方、院生達からも励ましと差し入れなどいただきました。

まさに、実践センターの名にふさわしい臨機応変で実践的な動きが可能になったのは熊本大学の皆様のおかげです。ありがとうございました。

今年度の教員免許状更新講習をふりかえって

教育実践総合センター特任教授 田中 耕治

一昨年度から本格実施された教員免許状更新講習も二年を経過しました。最初のうちは受講する側にも教える側にも、戸惑いや構えがあったようですが、講習を重ねるごとにスムーズな流れになってきたように思います。今年度は、必修講習数が16で受講者数は846名、選択講習数が72で受講者数は1543名でした。昨年度とそれほどの違いはありませんでした。講習が終わった後の受講者に対するアンケートでは、「内容・方法」、「最新の知識・情報」、「運営のやり方」、「講習全体」といった項目の評価で、「よい」、「だいたいよい」と答えた受講者が90%程度と、今年度も高い数値を示していました。その中で最も好評であったのが、「学校に帰ってからの自分の教育実践に生かせるものがあった」というものでした。これは、「最新の情報・知識を身につけ、自信と誇りを持って教壇に立ちたい」といった受講者の気持ちと、「現場の先生の要望にそった講習をしよう」

という講師の気持ちが講習にあらわれたものだと思います。また一方、小中高の現場教員と大学の間にこの免許状更新講習を通して、新しい連携・交流ができつつあるのは大きな成果だと思います。この流れが大きくなることを切に願っています。

課題や要望としては、「現職教員の多忙さを解消するためにも県教育委員会が行う研修とこの更新講習を組み合わせ整理してほしい」とか、「短い時間の講習を基にテストをただで免許状更新をすることに疑問を感じる」とか、「民主党はマニフェストに、教員免許更新制を含む教員免許制度の『抜本的見直し』を掲げているが今後が不透明である」などがありました。

文部科学省は、「教員免許更新制は平成23年度も現行通り行う」と言っています。この研修制度がこれらの課題を克服しつつ、さらにいい方向に向かうことを願っています。

メイクフレンズの活動に接して思うこと

事務補佐員 正木 明子

メイクフレンズの学生たちに、正式な手続きを踏んだ上で、地元の子ども会行事のサポートをお願いしてみました。

通常は電話で済ませることの多い事前打ち合わせについても「せっかくの機会なので顔合わせをかねて事前に子どもたちと話をさせてください！」と非常に意欲的でした。そこで行事の1週間前に子どもたちとの話し合いの場を設けることにしました。

事前打ち合わせは、子どもたちへのインタビューから始まり、どんな遊びがはやっているか？〇〇ゲームはやったことあるか？など、次から次に質問や意見が飛び交いました。子どもたちは学生との話し合いをとても楽しみにしていたので、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。

行事の本番当日にこの顔合わせの効果がすぐにあらわれました。数人の子どもたちが学生のニックネームを覚えていて、盛り上がるきっかけになったのです。司会進行

や挨拶もすべて子どもたちに任せましたが、学生のサポートもあって最後まで立派にやり遂げることができました。小さなトラブルが発生した時も学生たちがすぐにフォローしてくれて、頼りになる指導者の顔をのぞかせてくれました。

学生たちは自分たちにより近い存在であることを子どもたちはよく知っています。だから心を開くのも早いのでしょう。学生たちもまた、そのことをよく理解し、真摯に熱心に子どもたちと向き合っていたと思います。

今回メイクフレンズの活動に直接ふれたことで、彼らの前向きな姿勢や熱意を感じ取ることができ、とてもよい経験となりました。次世代の教育を担う彼らに託された課題は山積していますが、何かやってくれる！そんな希望を持つことのできた1日でした。

センター日誌

平成22年度

3月23日 第73回運営委員会

5月12日 市教委連携推進委員会
(教育学部)

5月20日 第74回運営委員会

平成23年度

4月9日 ユア・フレンド事業説明会
(教育学部)

6月7日 教員研修モデルカリキュラム
スキル研修1(吉田・田中)

4月12日 教員免許状更新講習実施委員会
(教育学部)

6月16日 公開講座リーダーシップ・
トレーニング熊本会場(17日まで)

5月7日 ユア・フレンド事業研修会
(教育学部)

6月12日 免許更新講習(中山)
6月18日 4年次教育実習事後指導
(19日まで)

5月9日 ユア・フレンド事業研修会
補講(教育学部)

6月25日 4年次教育実習事後指導
(26日まで)

本年度、新たに堀畑正臣センター長をお迎えしました。教員免許更新講座も教育学部から全学の組織へと衣替えし、その実施委員長としての責任も重くなりました。そうした状況の下で、新センター長としてご尽力いただいています。このほかにもセンターが関わるものが増えてきました。センター職員全員で協力しながら与えられた仕事を果たしています。とくに教員免許状更新講座では、申込数が予想を遙かに上回り、軒並みキャンセル待ちになりました。こうした状況に対応するため、センター職員4人で必修の2講座を追加して担当します。▲今年度は「教員研修モデルカリキュラム開発」についても幸いにも申請が認められました。中山先生をリーダーにして、これもセンター全員で実施しています。また、このプログラムについては国語科の河野順子先生、心理学科の藤田豊先生にも強力なサポートをいただいています。その詳細は中山先生のご紹介記事をご覧ください。▲今年度は熊本市教育委員会と教育学部の連携事業の一つである「ユアフレンド事業」が10周年を迎えました。これを記念して1月28日（土）にシンポジウムを計画しています。改めてご案内しますが、多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。▲また、ご多分に漏れず、センターの運営に関わる予算も縮小を重ねてきました。先生方のご期待に応えて、様々な新鋭機器を購入していた時代は遙か昔のことになりました。そうしたマイナスの分はセンター職員の人的なエネルギーで取り返したいと考えています。おかげさまで大事な仕事を担当させていただくことが多くなってきました。せっかくですから、“気持ちよく”をモットーにしています。はじめから“できない、できない”では本当に何も出来ません。（文責 吉田道雄）

熊本大学教育学部附属教育実践センターニュース

（題字 森山秀吉元教育学部教授）

No.3 6 2011.7.22

〒860-0081 熊本市京町本丁5-12 Tel 096-325-3282 Fax 096-352-3468